

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER



Lend a Hand

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2570



ガバナー月信

No. 4

2003.10.01

GOVERNOR'S MESSAGE

『職業奉仕月間に寄せて』

職業奉仕はロータリーそのもの



ガバナー 高山 孝

職業奉仕

職業奉仕とはロータリーの原点であり、ロータリー独自の活動です。職業倫理そのものは常に新しいものを求めるべきでなく、変化にたえて、生活の質の向上に役立つものです。職業奉仕とは、つまるところ、欲望の自己制御とも言えます。

“質を重視すれば、数はおのずからついてくる”といった、2002 - 03年度R I会長ビチャイ・ラタクル氏の言葉は大いなる、意義ある発言でした。没人間性の破棄、人間回復以外にない。人々は日々不安におののいて、寄附や慈善事業と企業行動とどちらが社会的影響が大きいかと、今、さらに論議しなければなりません。職業倫理の重要性をこれほどに強く訴えたときは過去にありません。企業のすべてに誠実という新紀元を築くために断固として行動すべきです。

職業奉仕を金看板だとするロータリー、今こそ会員相互に働きかけ、助け合うときではないでしょうか。

ロータリアンから「職業奉仕はよく分からない、職業奉仕は具体的に何をしたらいいのか分からない」という声をしばしば耳にします。

ロータリーが他の奉仕団体と異なるのは職業奉仕のためと言うのであれば、職業奉仕を理解していなければ、ロータリーが分からないはずだと思います。

職業 (Vocational) と奉仕 (Service) とを一緒にしたロータリー造語で独自につくり出した言葉だとすれば、これを理解することから始めなければなりません。

アーサー・シェルドンは「ロータリーが職業人であるロータリアンで構成されている以上、会員個人の事業の発展及び安定的な継続、利益の向上を図ることが、ロータリー運動を維持し、発展させるための前提だ」としました。さらに「お客や取引先の立場を十分に考慮したサービス (Service) であることを指摘し、自分の周りの人たちの幸福を考慮しながら、適正な方法で経済的な利潤を確保することによって初めて得られるもの」としました。

したがって、当時ロータリーは、ロータリアン個人の職業活動を「職業奉仕」と言っています。

1987年、R I 理事会は「職業奉仕に関する声明」を採択しました。

職業奉仕は、ロータリークラブの会員両方の責務であるとししました。

この職業奉仕に関する声明は、ロータリアンが個人で行う職業奉仕活動に、クラブレベルの職業奉仕活動を加えています。

ロータリークラブで行う職業奉仕活動として、職業相談・職業指導・職業情報・優良従業員を表彰、職場見学を行っています。この点、社会奉仕と考えられる一面もあるように思えます。

ロータリーの基本が職業奉仕であるならば、ロータリアンが利潤を得るとき、また報酬を得るとき、常に考えなければならないことは、自分の職業に関係する人たちの利益または幸せにつながっているかどうかという点です。

顧客に満足を与えているか、下請業者に無理を強要していないか、従業員に不満はないか、同業者に公正であるかどうか、環境保全に配慮しているか……を常に配慮することが職業奉仕であると思うのです。

職業奉仕 四つの反省

1. 顧客について：
 - 最上の品質、最高のサービスを提供しているか。
 - 常に正直・親切を旨としているか。
2. 従業員に対して：
 - 彼らの長所を十分に認めかつ買っているか。
 - 安全で快適な職場を確保しているか。
 - 苦情に対して公平な態度で対処しているか。
 - みずから誠意・正直・善意の手本を示しているか。
3. 競争者に対して：
 - 公平な態度で接しているか。
 - あなたは、行動をもって誠実を感銘させているか。
 - 彼らとともに事業水準の高揚に努めているか。
4. 協力者に対して：
 - 公平でしかも友情に満ちた関係を保っているか。

ロータリー特別月間

(2002 VOL.50 NO.12 ロータリーの友より)

10月 職業奉仕月間 (Vocational Service Month)

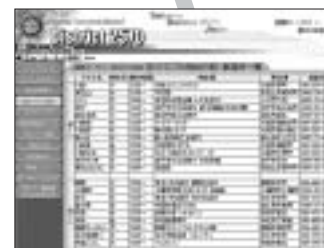
R I 理事会では、一人ひとりのロータリアンだけでなく、クラブも職業奉仕の理想を日常実践するよう強調するために、特に職業奉仕に焦点を絞ったプログラムを行うように、奨励しています。

クラブに推奨される具体的活動は、①地区レベルの行事で、ロータリーボランティアを表彰すること、②ロータリー親睦活動への参加を推進すること、③職業奉仕活動またはプロジェクトを提唱すること、④空席の職業分類に会員を入会させる会員増強活動、があります。

ホームページをご利用下さい

7月1日より第2570地区のホームページが立ち上がりました。ぜひご利用下さい。

URL:<http://www.rid2570.gr.jp/2003>



GOVERNOR'S MESSAGE

『米山月間に寄せて』

変わりつつある米山奨学会



ガバナー 高山 孝

米山奨学委員会

米山奨学会は日本独自のもので、ロータリアンの寄附を財源とし、国際ロータリーとは別の財団法人となっています。

世界中の各国から来日して、学校、研究機関に在籍する外国人留学生に奨学金を支給する制度です。日本の奨学金では最大のもので、年間約20億の規模を持っています。

米山奨学学友委員会は、ロータリアンと学友会員との交流を図り、国際理解と親善を深めるための学友の組織です。

この独自の奨学をさらにどう未来に向けて育て上げるか。不易流行をどう取り込むかがこれからの課題です。

米山奨学会が大きく変わりつつあります。最近10年間の寄附額のピークは1996年で21億円あったものが、厳しい経済状況の変化と会員数の減少によって、1999年から特別積立金を取り崩して支給されていて、ピーク時の1,100人から1,000人と減らさざるを得ない状況です。奨学金制度に期待するものとして、大きな変化は奨学金を経済的に困っている学生に支給するよりは、優秀な学生を得ようとすることに変わってきました。

優秀とは何を意味するのでしょうか。

- ①国際交流奉仕活動に可能性を持った若者
- ②親善交流を可能にする奨学金
- ③学業が優秀であること
- ④国や組織のバランスを持った学生・奨学生にとって魅力的な奨学制度であることが大切と思うが、魅力の一つは奨学金の額が問題となろう。

国費の留学生(大学院生) 18万4,000人 / 留学生 約9,000人
米山記念奨学生(大学院生) 15万0,000人 / 留学生 約1,000人
民間奨学生(200)

最近、米山奨学会に合格した学生が併願していた他の奨学制度に合格して、米山を辞退する場合が出てきました。

米山記念奨学制度は、R Iにとっても模範的な存在だとして、将来R Iに貢献することも考えられるやも知れません。

ちなみに、厚生労働省によると留学生の数は2002年5月の時点で、9万5,550人、うち国費留学生は9,009人。米山留学生1,000人であるとしています。

米山奨学生の資格条件も大きく変化してきています。

- ①かつては、アジアのロータリー所在国に限られていたが、対象国枠を取り外して世界中から応募している。
- ②奨学期間終了後、かつての帰国して母国の発展に貢献するという目的を見直し、日本での職業、他国の研究生となることが許容されている。
- ③救貧制度であった制度が、優秀な学生を求める制度となった。
- ④優秀な学生を獲得するために、第一次選考を指定する大学に推薦をゆだねる推薦制度を採用。
- ⑤米山記念奨学制度は単に留学生に対して奨学金を与える事業ではないことの理解。

10月 『職業奉仕月間』に寄せて

私の職業奉仕

職業奉仕部門担当諮問委員

パストガバナー 大館清次 (朝霞RC)



平成5年3月、私は45年間勤務した職場を無事退職した。その間に私の前を通り過ぎていった者は9,000余名、私の分身たちが社会に出てそれぞれの分野で活躍している姿を見るとうれしく思い、同時に教師という仕事を選択したことは誤っていなかったとつくづく思う。

私は在職中、常に塾祖福沢諭吉の教え「気品の泉源、智徳の模範たるべし」を説いた。昭和50年11月、朝霞RCに入会させて頂いたが、ロータリーの綱領に出会ったときは、思わずひざを打った。すなわちその第2項に「事業及び専門職務の道徳的水準を高めること…、そしてロータ

リアン各自が業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること。」とある。私が日ごろ後輩たちに説いていたことが、ロータリーでも力説されていたのである。

1996 - 97年、皆様のご推挙によって地区ガバナーの大役が私に回ってきた。年度のテーマは“築け未来を—行動力と先見の眼で—”であり、次世代の若者の育成に力が注がれた。まさに“我が意を得たり”の感強しであった。

昨今、政界でも業界でも、品性を疑いたくなるようなリーダーを目にする。寂しい限りであるが、我々も“他山の石”としなければならない。

職業奉仕とは

職業奉仕部門委員長

橋本正彦 (朝霞RC)



「どうも職業奉仕はよく分からない」という声をよく耳にします。確かに職業は会社の利益を目的とする商行為であり、奉仕は世のため人のために利益を求めない行為です。この正反対の言葉を合体させて職業奉仕と言うのですから、分かりにくいのも無理はないかも知れません。しかし、ロータリーの先人がこの二つの言葉を合体させたところに、ロータリーのロータリーたるゆえんがあります。

江戸時代の心学者、石田梅岩が「商人の活動は、社会を益するものでなくてはならない。しかし、私利私欲があっては世の人々に見捨てられ

る。あくまで“先を立て、我を立てる”考えを守るべきだ」と説いています。なんとシェルドンの教えである「最もよく奉仕するもの、最も多く報われる」とも共通するのです。

多くの人の善意の気持ちのこもったお金、これが職業奉仕で得たお金です。ですからロータリークラブは寄附団体でも、慈善団体でも、ボランティア団体でもなく、ロータリアンの一人ひとりが職業を通して“奉仕の心”を開発していく団体であると言えます。したがって、ロータリーは職業奉仕が原点であり、団体奉仕ではなく、個人奉仕が第一義であると言われるのです。

10月『職業奉仕月間』に寄せて

今年度の目標と予定

職業奉仕委員長
野原正次郎 (川越西RC)



新年度、既に2ヵ月を経過致しました。

今年度の目標と予定とをあわせて各ロータリークラブの職業奉仕委員長、会長にお願いを申し上げます。

1) 職業奉仕研修会を7月12日第2グループにおいて開催致しました。

今後の参考のため地区内の委員長にも参加して頂き、100名弱の出席のもと大変感動的な経済講演に盛大な拍手と賞賛を頂きました。

次回は第1グループを中心として、9月20日(土)川越氷川会館にて開催し、10月に第3

グループを予定しております。

2) 年度後半、県内のNGO アジア&アフリカを通じて、会員のたんすに眠っている衣料品をアフリカを中心に支援する企画をしています。

3) 各ロータリークラブにおきまして、各会員の『職業倫理と職業紹介』の冊子の作成です。上記の2項目は地区主導で行いますが、これは10月の職業月間をめどとして、各クラブの職業奉仕委員長を中心に作成して下さい。

できれば、私の職業倫理観として、2回くらい卓話時間を利用して数名の会員の発表をして頂きたく、お願い申し上げます。



家族親睦例会を開催

坂戸ロータリークラブの「家族親睦・バーベキュー例会」が8月28日(木)午後6時より、坂戸市民総合運動公園の野外施設(キャンプ場)で行われた。当日は高山ガバナー、坂戸ロータリークラブ名誉会員の伊利市長をはじめ、家族委員会関連の地区役員、そして近隣クラブの会長幹事を来賓に迎え、ロータリアン家族・ロータリー家族が多数参加し、盛大に行われた。



夏の夜のひとときを「バックキー白片とアロハ・ハワイアンズ」の歌と演奏とフラダンスを堪能し、会員・家族間及び近隣クラブ会員との親睦を図った。また、バーベキュー、施設設営に関しては、子クラブである坂戸さつきクラブ会員の全面協力があった。すべて手づくりということで、企画・準備をすることで会員間の親睦も図れ意義ある例会となった。

10月『米山月間』に寄せて

知的国際貢献にご協力を

米山奨学部門担当諮問委員

パストガバナー 金子千侍 (秩父RC)



10月は米山月間です。日本のロータリアン全員の寄附金によってなされている国際奉仕、つまり米山記念奨学会の活動をより強調、鼓舞して、ロータリアンの皆さんに認識を一層深め、ご協力を頂こうという月間です。

“米山”とは、日本に初めて東京クラブを設立した米山梅吉氏のごことで、崇高な人間愛を持って積極的な奉仕活動を行い1946年ご逝去されました。東京クラブでは氏の偉大な業績を顕彰すべく1952年米山基金を設立し、その後全国のクラブの協同事業となり、1967年文部科学省の認可を得て財団法人ロータリー米山記念奨学会と

なりました。奨学会の目的は、日本に在留している外国人留学生に対し、国際理解と親善を深めるために奨学金を支給、援助するものです。

米山奨学会は設立以来51年、お世話した奨学生1万1,352名、96ヵ国となっております。現在毎年1,000名の奨学生を援助しています。今、大変厳しい経済状況の中、ロータリアンの皆様の浄財によって奨学会は支えられているのです。

このような日本ロータリアンの素晴らしい国際奉仕、米山奨学事業を通しての知的国際貢献、向後ともご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

素晴らしい心意気

米山奨学部門委員長

井花富男 (新狭山RC)



戦後まだ余裕のない大変貧しかったころ、米山奨学事業は東京ロータリークラブ独自の国際奉仕活動として1名の奨学生からスタートしました。その後、日本の全ロータリアンの国際奉仕活動として展開し、現在は外国人留学生1,000名に奨学金を支給しております。留学生の学業援助だけでなく、世話クラブ・カウンセラー制度を通じ国際平和と理解にも大きく寄与し、国にも大きく貢献する奨学事業となりました。これもひとえに先輩ロータリアンの大変なご努力と、皆さんの温かいご理解とご協力の結果です。

日本で学ぶ外国人留学生にとってこの奨学事

業は大変心強いものがあります。長引く不況で大変ですが、私たちは、先輩ロータリアンの「素晴らしい心意気」を引き継ぎ発展させ、後輩につないでいく責務があると思います。

10月の米山月間は、この事業の継続発展のため、皆さんにさらなるご理解と事業の意義の共有化をして頂くことが何よりも肝要と考えています。

学友、奨学生、地区役員の卓話あるいはクラブ独自のプログラム等をご企画のことと思います。この月間を機に米山奨学事業にこれまで以上の温かいご理解とご支援を頂けましたら幸いです。

10月『米山月間』に寄せて

10月の実績が大切です

米山奨学推進委員長

松田正己（所沢中央RC）



昨年の実績を見ると米山月間の10月は年間実績の17%を占めています。2桁の実績が上がる月は、10月以外では7月が15%、12月が14%、1月が13%ですが、12月と1月は普通寄附金の実績が加算されますので、10月と12月が特別に実績が上がる月と言えます。累積で見ますと7月から1月までに年間実績の73%の達成です。

こうして見てくると、前半の7ヵ月、特に10月の米山月間がいかに大切な月であるかがよく分かります。したがって10月の米山月間に実績を上げられないクラブは年間目標数字の達成が非常に難しくなると思われます。

ご存知のように今年度は、会員1人当たり1万6,000円の達成をお願いしており、1人当たりの金額では昨年より厳しい数字です。地区協議会、米山クラブ委員長会議で、私がお願いしましたようにクラブの普通寄附金を年間6,000円にして頂ければ、お願い申し上げた目標数字達成には1万円×会員数の特別寄附金となります。

しかも今年度から特別寄附金は1人30万円から10万円に変わりましたので、今までよりもお願いしやすくなりました。各クラブ米山委員長さんには事情をご賢察の上、格別のご協力をぜひともお願い申し上げます。

末永い交流と信頼関係を

米山奨学学友委員長

西澤孝夫（越生毛呂RC）



現在、当地区でお世話をしている奨学生は24名（男性8名・女性16名）です。中国をはじめ、アジア諸国、メキシコからの奨学生もおります。そして、24のクラブに世話クラブとなって頂き、カウンセラーが学生生活から日常の生活に至るまで親身になって相談に乗っております。

奨学学友会の活動については、各種の行事を奨学生と学友会で協力して実施し、近年著しい成果を上げています。主な行事としては、毎年9月には米山梅吉記念館を訪れて、墓参りを兼ねた1泊2日の研修旅行をしています。

10月は米山月間にちなんで、各クラブを奨学

生たちが訪問し、卓話をしてもらっています。11月初旬にはバーベキュー大会を行い、奨学生のお国自慢の料理も披露されています。本年は特に各クラブの米山委員長さんにも参加を呼びかけて、より大勢のロータリアンに米山の理解を深めるべく計画しています。そして、来年2月には卒業生である奨学生と指導教官を交えて歓送会を開催します。

このように我々ロータリアンと奨学生、学友会の人たちの各行事を通じて培った意義のある奨学期間から、将来において細くとも末永い交流と信頼関係が生まれることを期待しています。

米山奨学部門クラブ委員長会議報告

米山奨学推進委員長 松田正己 (所沢中央RC)



クラブ米山委員長会議が7月27日、北坂戸オルモにて開催されました。

まず高山ガバナーより、米山奨学事業の重要性が説かれ、それに引きかえ厳しい経済状況と地区会員の減少で今年も大変な年度を迎えているが、お互い知恵を絞って頑張りましょうとあいさつがありました。

米山記念奨学会の金子理事からは、米山奨学事業誕生の歴史の分かりやすいお話があり、引き続き井花部門委員長より今年度の米山奨学部門の活動方針と事業計画の総括的説明がなされました。

具体的な活動方針と学友会については西澤委員長より、推進委員会からは私がお願い方々ご説明申し上げ、内容については次のとおりであります。

1. 今年度の地区目標数字は3,500万円、1人当たり約1万6,000円となります。地区目標数字は今までより減りましたが、会員数の減少により、1人当たりの寄附額は増えておりますので非常に厳しいものがあります。したがって10月の米山月間には万全の対応について説明方々お願いしたい。
2. 各クラブとも普通寄附を年間6,000円にお願いしたい。
3. 米山功労者表彰が変わり、特別寄附が30万円から10万円に変わりました。それに伴い、準功労者と米山ファンドフェローは廃止となりました。
4. そのため昨年特別寄附額0のクラブには格別のご協力をお願いし、また地区大会、各クラブの周年記念事業についても特段のご協力をお願いして、特に各クラブについては、1人当たり1万6,000円×会員数の目標数字達成に全力投球をお願いしたい。
5. 奨学生・学友活動については9月の米山記念館の研修旅行、11月の入間川河原でのバーベキュー大会、6月の学友会総会等、今年度も奨学生・学友とのふれ合いの場を設け、さらなる親睦を図りたい。

以上の内容でありましたが、最後の質疑応答には各クラブ委員長の関心も高く、活発な意見交換も見られ、有意義な会議でありました。



第1回ロータリー財団セミナー報告

財団部門委員長 野中弘之(熊谷東RC)

- 開催日 平成15年8月2日(土) 13:00～16:30
- 会場 ウェルサンピア埼玉おごせ
- 出席者 高山ガバナー、正田ガバナーエレクト、本塚担当諮問委員、地区財団関係役員16名、各クラブ会長、財団委員長他88名 計104名

今回の特色としては、外部講師は招かず、部門内で勉強、検討したことを参加された方々に説明し、大きく方向を変えつつある財団活動についてのご理解と、あわせて私たち地区役員の今年度にかかる熱意をお酌み取り願いたいという企画でした。

私からは「R財団があって初めて、RIがその世界的役割を演じ続けることができる」という言葉を引用、奉仕を標榜するロータリーにあって財団がいかに重要な立場にあるかご理解をお願いして、教育的プログラムの国際親善奨学生、新たな人道的プログラム地区補助金に、各クラブ積極的にご参加頂きたいこと、そして最も重要なことは、その裏づけとなる1人100ドルの年次寄附と50ドルのポリオの今年度早期達成をお願いしました。

梅澤補助金委員長からは、新たにクラブの奉仕活動に財団資金が直結する「地区補助金」につき、その内容、性格、申請手続き等、詳細に渡る説明が行われました。

休憩を入れて、弓田奨学学友委員長より今年度の国際親善候補生の選考経過と8名の候補生の自己紹介を兼ねたスピーチがあり、帰国生を代表して、アルゼンチンに留学した片山るいさんからの報告がありました。

本塚担当諮問委員から全体の感想と財団活動への協力依頼を頂き、予定時間どおりで終了しました。



青少年交換委員会報告

青少年交換委員長 山崎嘉正 (川越RC)

青少年交換委員会は去る7月26日に開催された第34期派遣候補生選考試験において、5名(すべて女子)の高校生を選考しました。その選考試験とは、「日本の文化をどのようにして海外の人に伝えるか」(略)と題しての作文に続き、英語の筆記、英会話、保護者同伴の面接で、午前9時半開始午後3時終了と、6時間余りの緊張感の中に行われました。

そして先般8月23日、開講式(第1回オリエンテーション)が開催され、派遣候補生は1年後の派遣に向け、ロータリーの青少年交換学生としてふさわしく、さらに民間親善大使の役割を果たせるよう10回のオリエンテーションを通じ、目的や意義、心構えを習得致します。

また来日学生については2003-04年来日が6名(アメリカ3名、ブラジル2名、オーストラリア1名)で、ホストクラブ、ホストファミリー、学校関係等多くの方々の熱意と協力により、皆伸び伸びと生活しております。国や地区が異なれば、来日学生のこのプログラムに対する心構えも千差万別、ましてや16~17歳の高校生です。羽目を外してカウンセラーやホストファーザーにしかられることなどしばしばです。しかしホスト関係者が互いに協力し、来日学生をお客様でなく、我が子、我が生徒として扱って頂けるので、その結果日本でのとうとい経験を、自国への土産として持ち帰ることができます。ホスト関係者の誠心誠意心温まる姿に、委員会として心から感謝致しております。

これからの委員会活動は夏季研修、帰国報告会等本格化してまいります。どうぞさらなるご理解とご協力をお願い致します。

【第34期派遣候補生】

候補者名	学 校 名	推薦クラブ
新井 由香	私立星野高等学校 1学年	川越RC
浦田 美幸	県立松山女子高等学校 2学年	東松山RC
鈴得 綾	県立松山女子高等学校 2学年	東松山むさしRC
並木 香理	県立熊谷西高等学校 2学年	熊谷南RC
野中真菜美	県立松山女子高等学校 1学年	熊谷東RC

【来日学生】

来日学生	出 身 国	受け入れクラブ	カウンセラー
アシュリー	オーストラリア D9810	熊谷南RC	埼玉 勝
ルージ	ブラジル D4750	本庄RC	後藤芳生
グラシア	ブラジル D4580	加須RC	相澤利夫
エミリー	アメリカ D6270	入間南RC	土田義人
リサ	アメリカ D7190	川越RC	井上 実
ブライアン	アメリカ D7190	坂戸RC	後藤 忠

ガバナー公式訪問報告

新座こぶしロータリークラブ 会長：田中秀明 幹事：国安隆之 会員数：20名

7月23日(水) / ベルセゾン

田中会長と国安幹事の絶妙なコンビによるクラブ運営は、会員の信頼感が感じられた。新入会員との面談も効果的な時間となった。

クラブ協議会は、各委員長の奉仕にかける熱意がひしひしと伝わってきた。特に「会員数は少なくとも我々は弱小クラブではなく、他のスモールクラブと連携して〈スモールクラブ元気再生計画〉を企画している。合同例会や地域への植樹計画を実施したい」との会長の方針でクラブ活動の全開を確信させられた。

第2グループガバナー補佐 浅田光二



和光ロータリークラブ 会長：鈴木勲二 幹事：斉藤悦夫 会員数：27名

7月25日(金) / 和光郵便局



地区内有数のロータリー経験を持たれることで知られる鈴木勲二会長は、今年度、緻密な会員増強計画とR情報の徹底に努め、会員もこれにこたえて、クラブ協議会も早朝例会や海外の姉妹クラブとの交流を強める等、成果の期待される内容であった。

また、これに先立つ新入会員の入会式も、厳粛な中にも温かい歓迎の心が披瀝されたセレモニーであった。

会員増強とあわせて退会防止が強く叫ばれる今年度、和光クラブに対する期待は大きい。

第2グループガバナー補佐 浅田光二

羽生ロータリークラブ 会長：藤間圭一 幹事：田辺正一 会員数：38名

7月29日(火) / 羽生市民プラザ

会長の三大目標が、「意欲を高める・会員増強・広報活動」と非常に明快であり、特に会員増強は10人増を目標とし、既に何人か内定者もいて熱気さえ感じられた。

ロータリーの欠点とも言われる広報活動では、青年会議所及びライオンズクラブと三者の合同事業として、市町村合併問題を取り上げ、マスコミを通じ、あるいは直接市民に訴えていくこととする等、意欲に満ちた活動計画で大きな期待を持って会場を後にした。

第5グループガバナー補佐 小林熊二



加須ロータリークラブ 会長：加庭寿久 幹事：高橋昇 会員数：39名

7月30日(水) / パストラルかぞ

当クラブは、年度後半に地区協議会のホストを務めることとなっているので、例会場をその予定施設へ移動して下見とともに行った。

国際奉仕・財団・米山の活動は非常にすぐれており、当日も受け入れ、送り出しの交換学生を招聘してにぎやかな例会となった。特に会長方針の「仲良くやろう」は、とても含蓄ある言葉と称賛され、職業奉仕の中学生職業体験学習へのロータリー独自の取り組みは、高く評価されるとともに、他クラブへの手本となろう。

第5グループガバナー補佐 小林熊二

**狭山中央ロータリークラブ** 会長：小澤泰衛 幹事：柴田譲 会員数：43名

8月5日(火) / 狭山東武サロン



創立1993年、狭山市内にある3クラブの一つです。本年度は、小澤泰衛会長、柴田譲幹事により運営され、43名の会員が在籍、内女性会員5名が含まれる素晴らしいクラブであります。

当クラブは昨年創立10周年を無事に終えられ、小澤会長の素晴らしいリーダーシップのもと、雰囲気も明るく、クラブフォーラムも年7回予定されております。今後はさらに内容の充実したクラブになられることと思います。

第3グループガバナー補佐 吉田健

熊谷南ロータリークラブ 会長：遠藤信行 幹事：横堀弘 会員数：43名

8月6日(水) / ホテルサンルート熊谷

創立からわずか7年目だが、それを少しも感じさせないすぐれた組織運営がなされており、しかも若さがみなぎりはたつとしていて、親クラブのよいところをすべて受け継いだ非常によいクラブである。

特に国際奉仕の青少年交換に連続して取り組むほか、姉妹クラブを締結し交流している。

社会奉仕では、希少動物ムサシトミヨの保護活動を、さらに来年に控える埼玉国体への協力を活動テーマとしている。

第5グループガバナー補佐 小林熊二



ガバナー公式訪問報告

行田ロータリークラブ 会長：湯本茂作 幹事：小林一好 会員数：69名

8月7日(木) / アドバンテスト・クラブハウス



将来を見きわめ先見的活動計画を持ち、しかも前々年ガバナーを輩出した歴史と伝統ある地区のリーダークラブである。

特に100周年記念事業委員会はロータリーの将来と地域の将来を見つめた数々の記念事業を計画している。さらに、健康管理・IT・未来・音楽文化委員会を設置して、会員の健康維持に当たる等、きめ細かい活動展開がなされ、IT委員会ではホームページの立ち上げや週報のネット送信等、まさに先進的クラブである。

第5グループガバナー補佐 小林熊二

所沢ロータリークラブ 会長：新井重雄 幹事：井花照光 会員数：70名

8月12日(火) / エスポワール農麓苑

創立昭和37年、本年にて42周年を数え、第3グループ内では会員数はトップ、2番目の歴史を誇るクラブです。過去当クラブより、中善寺登喜次氏(故)、梅沢定彦氏と2名のガバナーが輩出されており、そのためでしょうか重厚な雰囲気を感じられるクラブであります。

本年度は、新井重雄会長、井花照光幹事のもと長い歴史よりロータリーのよい点のみ抽出され、四大奉仕活動を積極的に実施されています。第3グループのリーダーシップをとられることを期待します。

第3グループガバナー補佐 吉田健



寄居ロータリークラブ 会長：小池貞作 幹事：松本弘 会員数：43名

8月13日(水) / 武蔵野銀行 寄居支店



お盆初日の公式訪問だった。お2人の住職会員は超多忙の中での出席。補佐訪問時の打ち合わせで例会時間を

1時に終了とした。小池会長、松本幹事との車中に続く四者面談及び新入会員との対話と助言は、ガバナーのねらいどおり執行部と新人に自信と安心を与えたようだ。藤崎初代会長、森PGをはじめ地区役員経験者も出席され重厚さがうかがわれた。

例会・クラブ協議会には全員が参加、大島増強委員長の取り組み、交通安全シールの全世帯配布等地域社会への取り組みはさすがである。

第4グループガバナー補佐 浅田進

皆野長瀬ロータリークラブ 会長：萩原繁 幹事：新井康夫 会員数：14名

8月14日(木) / 養浩亭



例会場は名所長瀬の名門「養浩亭」。冷夏終日雨で青石畳と木々と川音に囲まれ避暑地での会と錯覚。あたかもガバナーを囲む対話の会的な和やかな公式訪問だった。

少人数ゆえの悩みとよさをあわせ持つクラブの今後の発展の方策について、全員で忌憚のない意見交換をした。

少人数とはいえ観光地を生かした合同例会の開催、環境保全や祭り等地域社会への参加活動、会報のパソコン作成、増強パンフの手づくり作成と配布等々全員での取り組みは心強い。

第4グループガバナー補佐 浅田進

熊谷西ロータリークラブ 会長：横山政人 幹事：原口安太郎 会員数：42名**妻沼ロータリークラブ** 会長：須藤操 幹事：諸久夫 会員数：8名

8月18日(月) / レストランアーク

ガバナーと両クラブの意向が合致して、2クラブ合同の公式訪問例会が実現した。

熊谷西RCの会長方針が「分かりやすいロータリー」で高い評価を得た。また、職業奉仕の計画で全員に法律相談券配布、会員の弁護士が券持参者誰でも30分の無料相談をするというすぐれた職業奉仕を計画した。

妻沼クラブは会員が減少したので、全会員が一丸となって一つひとつの奉仕活動に取り組んでいるが、早期の会員増を期待する。 第5グループガバナー補佐 小林熊二

**秩父ロータリークラブ** 会長：浅賀克彦 幹事：三上一郎 会員数：48名

8月19日(火) / 秩父神社参集殿



重厚かつ格調高い公式訪問。会場は秩父神社参集殿。貴賓室での浅賀会長、三上幹事との面談、7名の新入会員との対話、会員蘭田同社宮司と金子P.G.を囲んだ懇談、内容の濃い話題が飛び交う緊張感がみなぎった時間だった。かつて愛知万博に関係された蘭田会員からは、日本の森の文化をテーマにした「鎮守の森」構想を承った。

例会・協議会は、入会式での会長の新入会員心得説明、金子P.G.記念「ロータリーの森」の整備等々手がたい活動計画が印象に残った。

第4グループガバナー補佐 浅田進